

令和元年10月21日(月)  
ジビエペットフードシンポジウムの発表資料

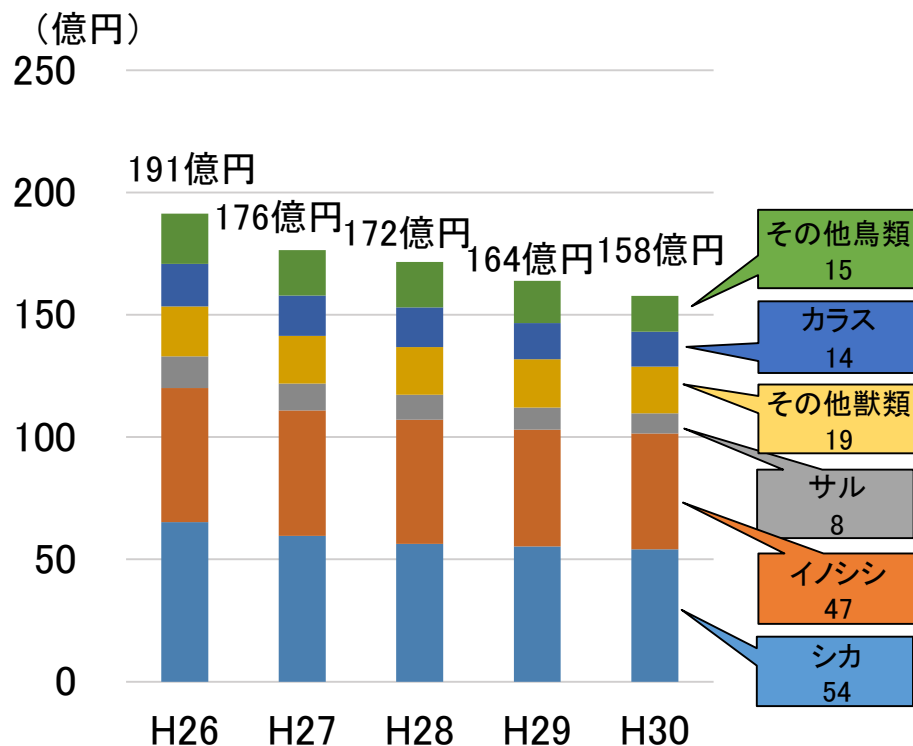
# ジビエペットフードをめぐる情勢

農林水産省 農村政策部  
鳥獣対策・農村環境課 鳥獣対策室

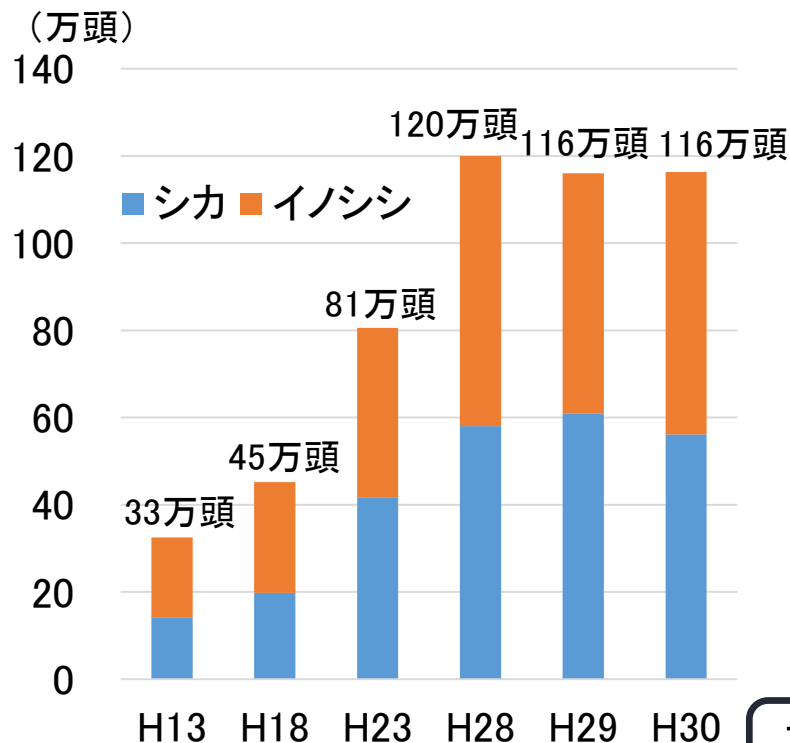
# 野生鳥獣による農作物被害、捕獲頭数の推移

- 平成30年度の野生鳥獣による農作物被害額は158億円で、シカ、イノシシ、サルによる被害が全体の7割を占める。
- 近年ではシカ、イノシシの捕獲頭数が大幅に増加し、平成30年度には116万頭が捕獲。

## ○ 野生鳥獣による農作物被害額の推移



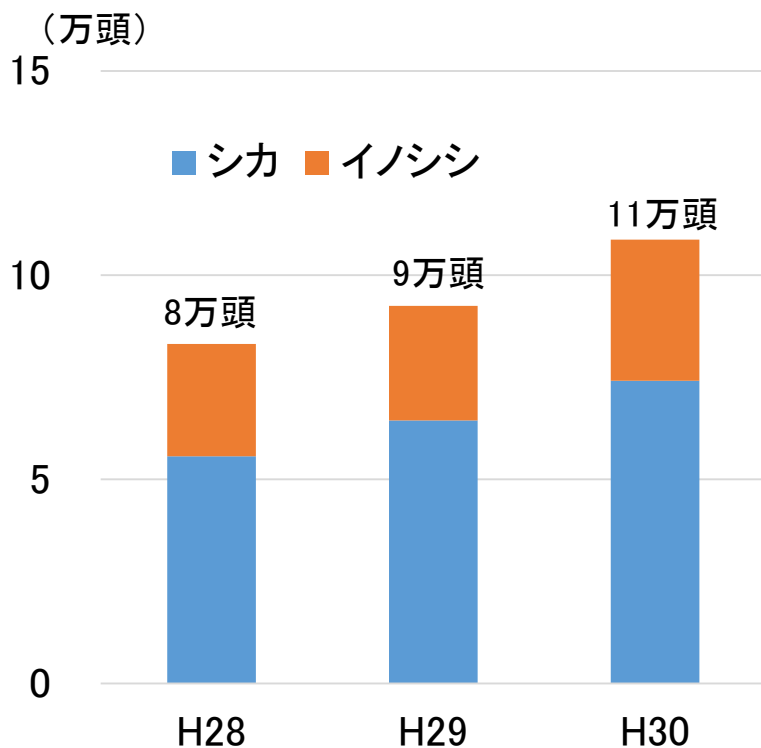
## ○ シカ、イノシシの捕獲頭数の推移



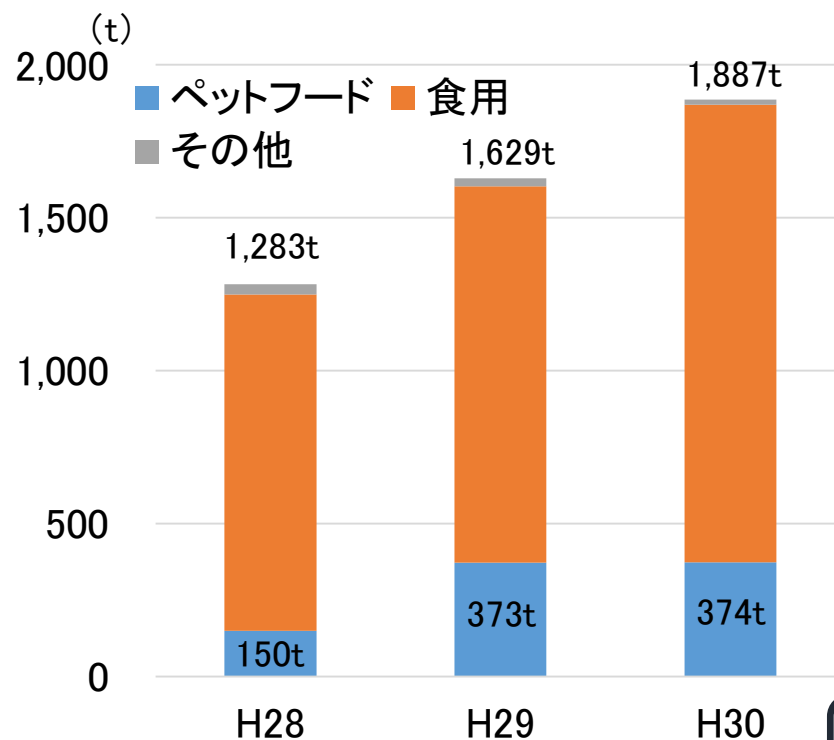
# 捕獲された野生鳥獣のジビエ利用の状況

- ジビエ利用されたシカ・イノシシの頭数は年々増加しており、平成30年度の利用頭数は11万頭で、利用量は1,887t。
- ジビエ利用のうちペットフード向けは、年々増加しており、平成30年度の利用量は374t（19%）。

## ○ ジビエ利用頭数の推移

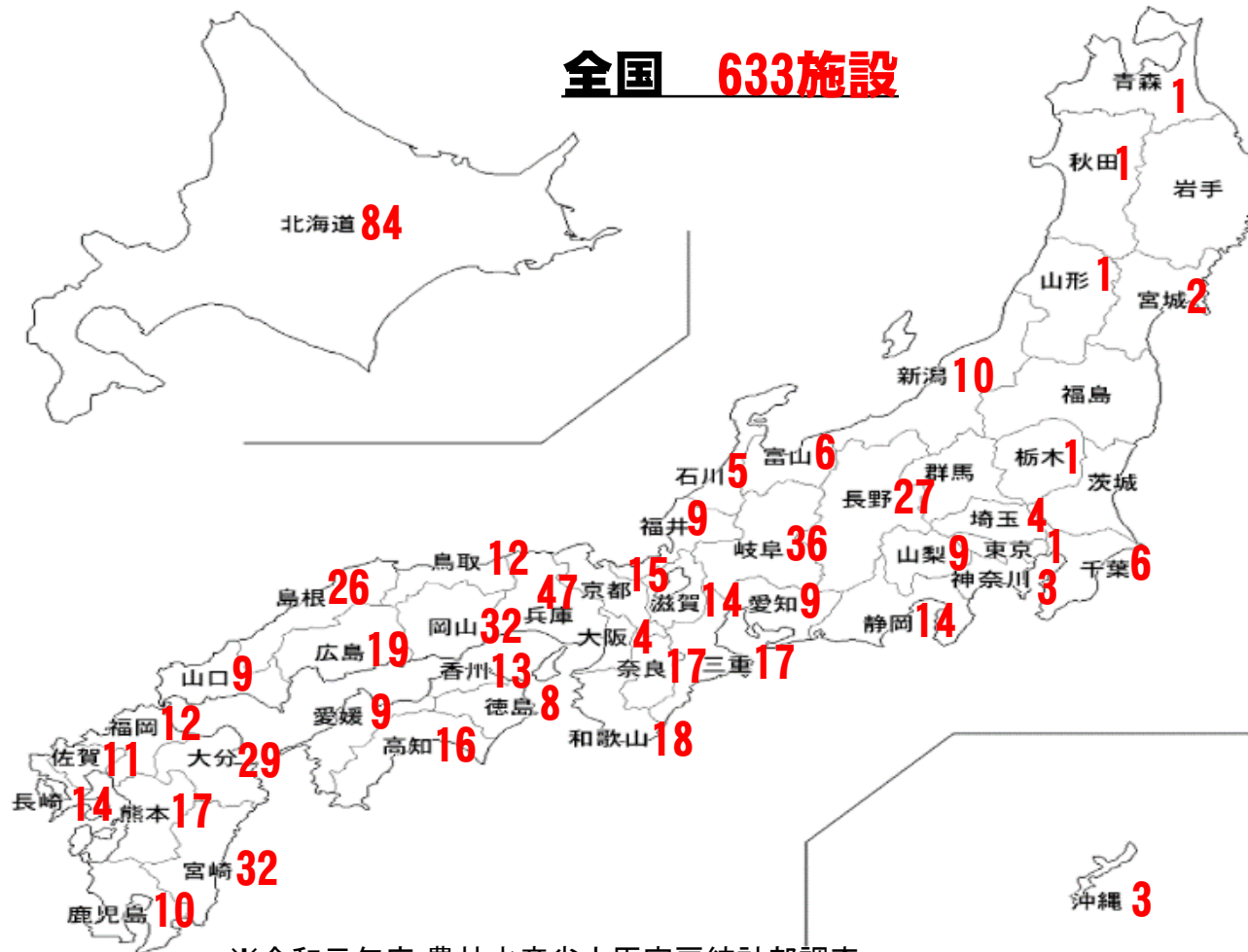


## ○ ジビエ利用量の推移



# ジビエの処理加工施設の数、分布等

○ 平成30年度に野生鳥獣の食肉処理を行った処理加工施設は全国で633施設。



※令和元年度 農林水産省大臣官房統計部調査  
食肉処理業の許可を有する野生鳥獣肉の処理加工施設。稼働休止中の施設は含まれない

# ジビエのペットフード利用の取組①

- ジビエの処理加工施設では、食肉加工で発生する端肉や内臓等をペットフード原料として販売する場合や自らペットフードに加工して製品を販売する場合がある。
- なかには、ペットフード向けの加工に専門的に取り組む処理加工施設がある。

## 静岡県伊豆市での取組

### 【伊豆市食肉加工センター「イズシカ問屋」】

運営者：伊豆市

取扱獣種：シカ、イノシシ

処理頭数(H30)：シカ 834頭、イノシシ 202頭

取組：市内で捕獲され、止め差し後2時間以内のシカ、イノシシを受入。

全頭を食用に加工し、加工時に発生する端肉や内臓、アバラ骨等をペットフード原料としてペットフード事業者へ販売。



### 【DEER BASE izu しかまる】

運営者：高山 弘次

取扱獣種：シカ

処理頭数(目標)：400頭

取組：市内で捕獲され、止め差し後2時間以内のシカを受入(30kg未満も積極的に)。

全頭を自らペットフードに加工。シカ肉、内臓、脚、角等をジャーキーやおしゃぶり等に加工。SNSを活用し、顧客に直接販売。



# ジビエのペットフード利用の取組②

## 【京丹波自然工房】

運営者：(株)ART CUBE

所在地：京都府船井郡京丹波町

取扱獣種：シカ、イノシシ

処理頭数(H30)：シカ 228頭、イノシシ 102頭

取組：止め刺し後1時間以内のシカ、イノシシを受け入れし、社員が自ら回収した個体を食用に、それ以外の個体(受入の約半数)をペットフードに加工。

シカ・イノシシの肉、内臓、骨等をジャーキーやふりかけ、ウェットフード・レトルト等の製品に加工。ネットや道の駅で販売するほか、各種イベントに出展し、顧客に直接販売。



## 【小諸市野生鳥獣商品化施設】

運営者：小諸市

所在地：長野県小諸市

取扱獣種：シカ

処理頭数：

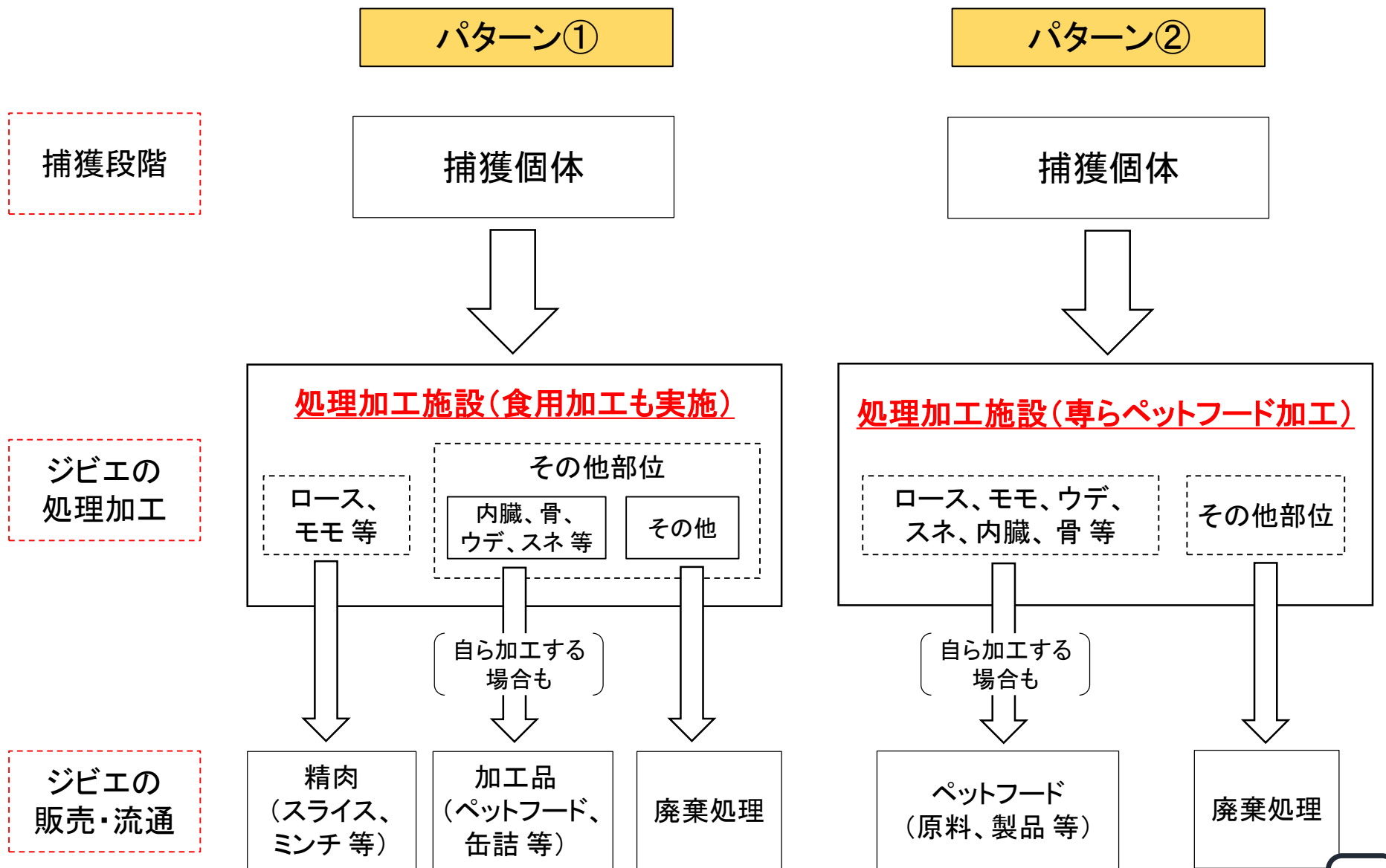
902頭(H30)、598頭(H29)、276頭(H28)

取組：H28年に運営を開始し、H30には近隣3市町からもシカを受け入れ、処理頭数を拡大。

ほぼ全頭をペットフード向けに加工し、製品の8割をペットフード原料として販売。また、シカ肉、内臓、骨等をジャーキーやおしゃぶり、ドライフード、ウェットフードに加工し、市役所売店や卸・小売等に販売するほか、ふるさと納税返礼品として提供。



# ジビエのペットフード利用(まとめ)



# なぜ今、ジビエペットフードなのか①

## ペットフード事業者

- ワンちゃんの飼育頭数の減少や、小型なワンちゃんの普及により、国内のペットフードの需要量は減少傾向で推移
- ペットの長寿化や飼育環境の変化等を背景に、ペットフードのニーズが多様化
- 新たな商材としてジビエ(特にシカ肉)に注目

## ペットオーナー

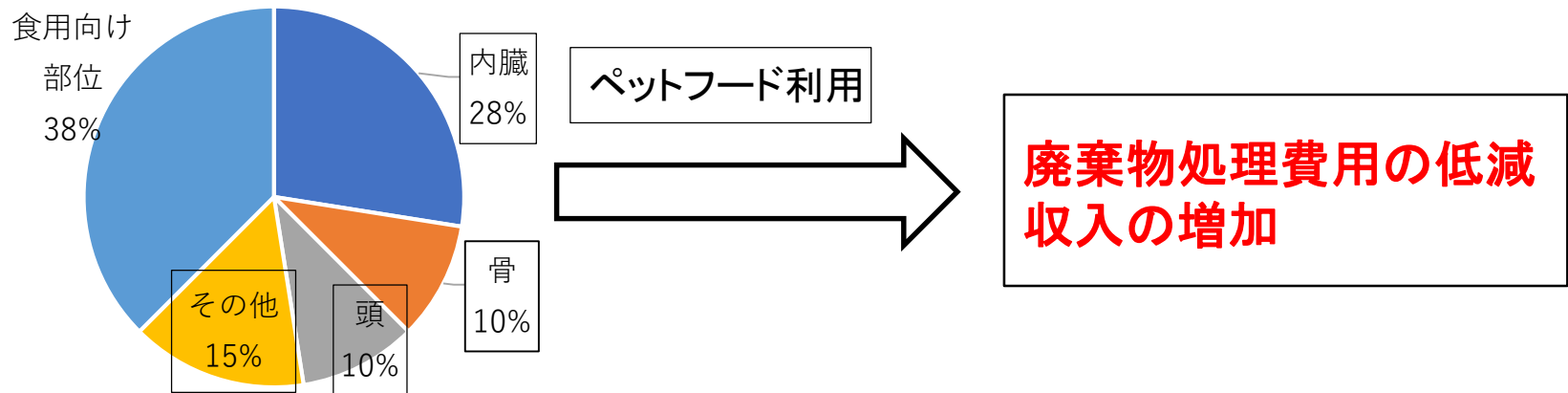
- ジビエのペットフード(特にシカ肉)は、肥満なペットのダイエット食として、アレルギーや皮膚病などに苦しむペットの療養食として注目
- 給餌してみると、食いつきがいい、毛艶・毛並みが良くなった、など良い効果があったとの声



# なぜ今、ジビエペットフードなのか②

## 処理加工施設が取り組むメリット

- 食用としての需要が見込めない内臓、骨、角、皮等をペットフード向けの原料として、または自らペットフードに加工して出荷することで、廃棄物処理費用の低減と収入の増加を実現



60kgのエゾシカからとれる割合(出典:北海道の処理加工施設)

- 原料として出荷する場合、ペットフード事業者のニーズ(毛や血合いの除去、食用と同様の衛生管理など)に応じた処理を行うことで、高値での販売が可能
- 自らペットフードに加工する場合、少額の設備投資(乾燥機の導入)でジャーキーやおしゃぶりの製造が可能  
また、受入の少ない時期に作業することで、作業の平準化が可能

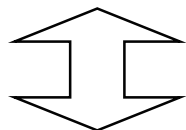
# なぜ今、ジビエペットフードなのか③

ジビエの食用利用による  
地域活性化

(例)千葉県大多喜町

**処理加工施設**

道の駅に併設  
(道の駅の管理者が運営)



**道の駅「たけゆらの里」**

イノシシ肉の直売  
イノシシ肉メニューの提供

〔 町外からも沢山の人がやってくる 〕

ジビエのペットフード利用による  
地域活性化



例えば

ツーリズム  
(食、遊、泊)

# 消費者の安心の確保のために

銃による捕獲



野生動物

寄生虫や病原性細菌等を  
保有しているリスクも

銃弾等の混入防止のため  
金属探知機による検査



肉の中心部まで十分加熱



# ジビエのペットフード利用のための支援

## 鳥獣被害防止総合対策交付金

- 野生鳥獣被害の深刻化・広域化に対応するため、地域関係者が一体となった被害対策の取組や、ジビエ利用拡大に向けた取組を支援

### <事業の内容>

市町村が作成した「被害防止計画」に基づく取組等を総合的に支援

ハード

- ・ ジビエ処理加工施設(保冷車、設備等含む)
- ・ ペットフード加工施設(設備等含む)の整備 等

ソフト

- ・ 処理加工技術等を向上させるための先進地調査、マニュアル作成
- ・ ペットフード製品の開発
- ・ 販路開拓のための販売会への参加 等

### <事業の流れ>

本事業を利用するためには、地域協議会への加入が必要



※ハード事業は地域協議会の構成員も可